

平成 2 1 年度
「外部有識者会議」報告書

平成 2 2 年 3 月

福井工業高等専門学校

ま え が き

本校の外部有識者会議（今年度よりそれまでの「評議員会」から「外部有識者会議」に名称変更を行った。）は、本校の教育研究目標計画、自己評価その他本校の運営に関する重要事項について学外有識者に審議、評価をお願いし、また助言、勧告をいただくために設けられており、これまで本校にとって大きな役割を果たしてきた。

最近の社会・経済情勢に目を向けると、長びく世界同時不況によりもたらされた失業率の上昇や就職率の悪化など厳しい雇用環境の下にあり、また、新型インフルエンザが猛威を振るうなど、本校にとっても大きな影響を受けるような状況が続いている。

今年度は、全国の国立高専が一つにまとまって法人化してから6年目に当たる。5年ごとに策定される中期目標・計画期間の第一期目が昨年度で終了し、今年度から新たな中期目標・計画の下に事業を展開する第2ステージに入っている。

また全国の高専の動きとしては、昨年10月に宮城、富山、香川、熊本の4地区において高度化再編が行われ、2校が一つとなったいわゆる「スーパー高専」が4校誕生した。

教育環境の整備については、一昨年夏より校舎の全面改修工事に着手しており、これまでに本館、機械工学科棟、電気電子工学科棟、物質工学科棟の工事が完了し、現在は管理棟の工事に取り掛かっている。今後ともより良い教育環境の確保に努めて参りたい。

こうした状況の中、平成22年2月に平成21年度外部有識者会議を開催し、各委員から多くの貴重なご意見、ご提言をいただいた。

今回、委員各位からいただいたご意見、ご提言については、学校関係者一同しっかりと胸に受け止め、今後の福井高専の運営や活動にできるだけ反映されるよう努めたい。

福井工業高等専門学校長

池 田 大 祐

目 次

まえがき

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則……………	1
II. 外部有識者会議委員名簿……………	2
III. 外部有識者会議日程……………	3
IV. 本校出席者名簿……………	4
V. 講評……………	5
VI. 参考資料……………	1 1

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則

平成16年5月13日規則第21号

改正 平成16年 6月 3日規則第23号 平成19年 2月 1日規則第 1号
平成21年 3月30日規則第2号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校外部有識者会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 会議は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 会議の議長は、委員の互選により定める。

(会議の開催)

第5条 会議は、校長が招集する。

2 会議は、年1回以上開催するものとする。

3 会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、総務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則（平成21年3月30日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

Ⅱ．外部有識者会議委員名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

新 原 皓 一 長岡技術科学大学学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

中 川 英 之 福井大学副学長

(本校の所在する地域の教育関係者)

岸 松 茂 鯖江市小中学校校長会副会長
(鯖江市中央中学校校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

笠 嶋 文 夫 福井県工業技術センター所長

(産業界の有識者)

野 村 一 榮 鯖江商工会議所会頭

(産業界の有識者)

本 島 正 勝 信越化学工業（株）磁性材料研究所 前所長

(報道機関の有識者)

山 下 裕 己 (株) 福井新聞社 論説主幹

Ⅲ. 外部有識者会議日程

1. 日 時 平成22年2月19日(金) 13:30～17:00
2. 場 所 サバエシティーホテル 2階 ブライTONの間
3. 日 程
 - 13:30 【開 会】 校長挨拶, 出席者の紹介, 議長選出
 - 14:00 【1. 本校の概要等】
本校の概要及び中期計画進捗状況について
…………企画室長, 教務・学生・寮務主事, 専攻科長
 - 15:00 — 休 憩 —
 - 15:10 【2. 全体討論・提言】
 - 16:15 — 休 憩 —
 - 16:30 【3. 講 評】
 - 17:00 【閉 会】 校長謝辞
4. 提示資料
 1. 自己点検・評価報告書
 2. 福井工業高等専門学校 平成21年度アクションプラン進捗状況
 3. 学校要覧 2009
 4. 学生便覧(平成21年度版)
 5. シラバス(本科, 専攻科)(平成21年度版)
 6. 専攻科パンフレット 2009
 7. 福井高専の歩き方 — 2010 College Guide —
 8. JOINT 2009 —地域連携テクノセンター活動紹介誌—
 9. シーズ集
 10. 平成19年度採択「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」
—起業家育成による実践的キャリア教育の推進— パンフレット
 11. 平成19年度採択「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
—社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ— パンフレット
 12. 図書館利用案内 2009

IV. 本校出席者名簿

校 長	池 田 大 祐	
企画室長（副校長）	太 田 泰 雄	（一般科目教室教授）
教務主事（副校長）	安 丸 尚 樹	（機械工学科教授）
学生主事（校長補佐）	上 島 晃 智	（物質工学科教授）
寮務主事（校長補佐）	朝 倉 相 一	（一般科目教室教授）
専攻科長（校長補佐）	田 中 嘉津彦	（機械工学科教授）
機械工学科長	藤 田 克 志	
電気電子工学科長	前 多 信 博	
電子情報工学科長	蘆 田 昇	
物質工学科長	津 田 良 弘	
環境都市工学科長	阿 部 孝 弘	（教育システム評価委員長）
一般科目教室（自然科学系）主任	島 田 茂	
一般科目教室（人文社会科学系）主任	前 田 安 信	
図 書 館 長	小 寺 光 雄	
創造教育開発センター長	坪 川 武 弘	
総合情報処理センター長	加 藤 省 三	
地域連携テクノセンター長	山 田 幹 雄	
教育研究支援センター長	前 川 公 男	
J A B E E 委員会委員長	吉 村 忠 與 志	
事 務 部 長	武 田 良 正	
総 務 課 長	鍛 冶 肇	
学 生 課 長	橘 田 良 一	
総務課課長補佐	加 藤 秀 志	
総務課評価・地域連携係長	東 義 雄	
総務課評価・地域連携係主任	近 藤 理 恵	
総務係	齊 藤 みどり	

V. 講評

〔新原委員〕

素晴らしいの一言に尽きる。限られた人員でこれほどの成果を上げるため、教職員に過度の負担が強いられているのではないかと心配になる。高専の存在理由として素晴らしいと思ったのは、5年間の一貫教育と2年制の専攻科の教育課程によって将来に渡り持続的に活躍できる人材を高専が育成している点である。また、地元への貢献の一つとして、原子力人材育成があったが、この点についても非常に賛同する。お願いとしては、これからの10年、20年先を考えると地域の産業構造も当然変化していくことになるので、福井高専としても、これらの変化を前提として今後の教育活動の見直しを進めてく必要があるのではないかと思います。昨年10月に学長に就任して以来、全国の高専を19校ほど回っているが、福井高専は本当に素晴らしいと思った。



長岡技術科学大学長
新原 皓一 氏

〔笠嶋委員〕



福井県工業技術センター所長
笠嶋 文夫 氏

学生の気質の変化や教員数の削減の中で教育や研究も非常に良くやっている。高専のブランドづくりという話があったが、ロボコン大会のテレビ放送で福井高専が出場していれば地元の代表であり応援にも力が入る。ブランドづくりには、もちろん教育というベースが重要であるが、今後もロボコン大会のような活動にも力を入れてブランドづくりに努めてほしい。また、福井高専の使命の一つとして説明のあった「地域と連携した産学官共同研究の推進」については、これまで以上に充実を図ってもらいたい。野村会

頭から鯖江商工会議所の「ものづくり支援機構」の話があったが、福井県工業技術センターとしても本事業を応援することにしており、福井高専とも協力・連携しながらやっていきたいと

考えている。福井県機械協同組合青年部と福井高専との共同研究に関しても機械協同組合のコーディネーターから本センターに対して協力依頼がきており、センターとして産学官連携推進の観点からも協力を行っていききたい。

[本島委員]

工業教育、技術教育は日本のものづくりの基本であり、その中で高専の果たす役割が非常に大きいといえる。全国の高専の中で福井高専は、非常に良くやっております感謝したい。先ほどロボコン大会が高専のブランドづくり、イメージアップに有効なイベントであるとの指摘があったが、その意義は、おそらく研究活動とも共通するが、実際にやってみて、失敗や欠陥があれば、改善、改良する点にあると思う。このような過程を一連で実際に体験できる機会は意外と少ないのではないか。ものづくりや研究開発の基本は、自分でやってみて、その結果をみて問題点を直していくところにある、この経験が大事である。このような経験を積んでいることが社会に出てから役に立つといえる。ロボコン以外にも学生がそのようなことが体験できる機会をいろいろ考えて、柔軟性や多様性をもった学生を育てることに今後とも努力してほしい。



信越化学工業（株）磁性材料研究所 顧問（前所長）
本島 正勝 氏

[山下委員]



（株）福井新聞社 論説主幹
山下 裕己 氏

全体的な評価としては、他の委員の皆さんと同様に福井高専は大変よくやっていると思う。昨年も福井高専の活動状況を聞いて圧倒された覚えがある。本科の卒業生の約半数が就職し、そのうち県内就職が約46%とのことで、かなり多くの卒業生が福井という地域で生活をしていくことになるので、学生に対してもう少し地域に関わる活動、例えば福井大学や仁愛大学の学生が熱心に取り組んでいる「まちおこし」や「まちづくり」の活動のようなものを奨励していただきたいと思います。地域活動、社会

活動というのは、基本的には家庭でやることで、学校がそこまでやる必要はないという考えも

あるかもしれないが、5年間の担任制というシステムの中で学生に対して指導してもらえるとありがたい。

[野村委員]

福井高専がこの地にあるということは、地元にとっても大きな財産があるということだと思っている。私の悩みの一つとして、伝統産業の後継者が近年どんどん少なくなっていることがある。高専を卒業して大企業に就職することも良いが、中小企業にいる方が、ものづくりの面白さ、楽しみがあり、本当に力を発揮できるともいえる。福井高専には、ものづくり教育を通して、一人でも多くの卒業生が地元に着定するようにしていただけるとありがたいと思っている。



鯖江商工会議所会頭
野村 一榮 氏

[岸松委員]

子どもたちを送り出している立場からは、福井高専が5年までの担任制度や学生相談体制の充実を図り、学生に対してきめ細かな指導を行っていることを知り感謝したい。私としては、福井高専が今後とも子ども達に夢を与える学校であってほしいし、地域住民の自慢となる学校であり続けてほしいと思う。今後、鯖江市内や県内の校長会議で機会があれば高専の良さを伝えていきたい。我々の立場としては、本当に意欲を持って真面目に一生懸命頑張る子ども高専に送りたいと思っているので、高専も責任をもって、受け入れた子どもたちが心身とも健康で充実した学校生活を送れるようにしてほしい。



鯖江市小中学校校長会副会長
(鯖江市中央中学校校長)
岸松 茂 氏

〔中川委員〕

私からは、全般的な講評をさせていただく。一つは、地域連携アカデミアとの関係をより強化して、教育面での連携を推進していただきたい。産業界との連携といっても、実際の具体化は案外難しく、企業から講師を招き講演会を行う、企業の実験設備を利用させてもらう程度になるかもしれないが、もう少し高専と地元企業とが融合した形での教育体制の具体化、教育課程に組み込むことも検討していただきたい。また、工学系の学生にはインターンシップが非常に重要であり、受け入れ企業をいかに確保していくのが重要である。本科生については、人数が多いため地元企業だけでというわけにはい

かない状況であるが、地元企業についても受け入れ先として積極的に開拓していただきたい。教育面に関しては、色々な点で工夫、努力されており、素晴らしいものだと思うが、特に作文指導、TOEIC への対応、創造性教育、物質工学科における報告書作成技術の向上のための年次的な取り組み、PBL型授業などは素晴らしい取り組みでありこれからも力を入れてやっていただきたい。Moodle へアクセスする環境整備も行われているが、このような学習支援策、Web 応用、コンピュータを使った学習支援は学生の自学自習を促すものとして積極的に展開していただきたい。キャリア教育に関しては、高専も大学も同じであるが、学校としてしっかりとキャリア教育を行うことが必要である。キャリア教育の内容、目的、目標が明確になっているのか、単なる就職指導ではなく、学生が卒業後どのように自分のキャリアを形成していくのかというところの基礎を教育する必要がある、今後ともしっかりと取り組んでほしい。共同研究、受託研究、科学研究費等の外部資金の獲得が減少傾向にある。景気の落ち込みなど世の中の状況も関係あると思うが、回復に向けて努力してほしい。女子学生の受け入れは、日本の産業構造の点からも必要なことなので積極的に進めてほしい。4 年次編入学の募集が行われているが、高専と高校の教育体系はかなり異なっており、違った経歴の学生が同じ場で学べることは、多様性の導入の面からも非常に重要である。高専に編入できる制度があることを高校生はほとんど知らないと思うので、入試広報にも力を入れていただきたい。国際化への対応については、教育・研究の面からも非常に重要である。寮の整備も進んでいることから、留学生が現在 9 名とのことであるが、その倍ぐらいになっても良いのではないかな。日本人学生にとっても非常に良い影響がある。メンタルヘルスについては、継続的に取り組んでいく必要がある。打たれ弱い学生が増えているのとの話があったが、学生との信頼関係を確立して、専門家が交えてメンタルヘルス対策にしっかりと取り組んでほしい。ここ数年で施設の改修整備がかなり進んでいるが、中味についても更に立派なものとなるようにしていただきたい。今年度から第Ⅱ次中期計画期間が開始となり、福井高専は年度のアクシンプランを作成し着実に取り



福井大学副学長（教育・学生担当理事）

中川 英之 氏

組もうとしている。今年度の進捗状況によれば、非常に頑張っていることが分かり、教職員にとって過重労働となるおそれが指摘されたが、その点については教職員間の協働関係の確立でかなり違ってくるのではないかと思う。平成 26 年からの第Ⅲ次中期計画の時点では、高専の在り方や高度化再編などを含めて大きな変化が予想される。その時には福井高専として、独自の路線が提案できるような強さを持っていていただきたい。総論としては、非常に素晴らしく良く努力していると思うので、今後も努力を重ねてますます素晴らしい福井高専にしていきたいと思います。

以上

VI. 参 考 資 料

福井高専外部有識者会議

本校の教育と研究の現状

企画室

平成22年2月 19日

福井工業高等専門学校



福井工業高等専門学校の使命

1. 創造性豊かな人材の育成
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る



福井高専の学習・教育目標



学習教育目標

- A. 倫理・ものづくり
- B. 工学・専門技術
- C. 創造・デザイン
- D. コミュニケーション
- E. 実践・倫理的思考

福井高専

- 福井高専

学習・教育目標

- A. 地球的視点の技術者倫理を意図した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- B. 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- C. 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- D. 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- E. 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

この学習・教育目標は、2004年度 JABEE 受審のために、JABEE認定基準2004年度版に基づき、『全ての専攻科学生が修了時に達成できる目標』(Outcomes)を定めています。



沿革

福井工業高等専門学校は、実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和40年4月に設置された。実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく、5年一貫教育を行っている。

卒業生 本科6,249名、専攻科262名

学科「機械工学科」「電気電子工学科」「電子情報工学科」「物質工学科」「環境都市工学科」

平成10年4月 専攻科を設置
「生産システム工学専攻」「環境システム工学専攻」



評価受審状況

(1)機関別認証評価

平成17年 大学評価学位授与機構による機関別認証評価受審、指摘事項なしとの評価を受ける。

(2)JABEE(日本技術者教育認定機構)

平成17年5月に日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定校となった。平成18年11月には中間審査を受審。

平成21年度には再受審を受けるため7月に自己点検書を提出し、10月に実地審査を受けた。



競争的資金採択状況

平成17年度文部科学省現代的教育ニーズプログラム「越のくにひとづくり・まちづくり」

期間 平成17年度～平成19年度

平成18年度経済産業省「高専等を活用した中小企業人材育成支援事業」

期間 平成18年度～平成20年度

平成17年度文部科学省現代的教育ニーズプログラム「起業家育成による実践的キャリア教育の推進」

期間 平成19年度～平成21年度

平成19年度文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム「高専3Dものづくり塾設計講座」

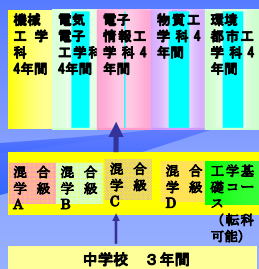
期間 平成19年度～平成21年度

平成19年度文部科学省現代的教育ニーズプログラム「アントレプレナーサポートセンターによる実践的キャリア教育の推進」

期間 平成19年度～平成21年度



「工学基礎コース」の設置 平成17年度設置



入学人数	機械工学	電気電子	電子情報	物質工学	環境都市
推薦 4712名 学力試験23名 工学基礎 8名	推薦 4712名 学力試験23名 工学基礎 8名	推薦 4712名 学力試験23名 工学基礎 8名	推薦 4712名 学力試験23名 工学基礎 8名	推薦 4712名 学力試験23名 工学基礎 8名	推薦 4712名 学力試験23名 工学基礎 8名
48名	48名	48名	48名	48名	48名



卒業者の就職・進学状況

	卒業者数	就職希望者	進学希望者	求人倍率
本科	169名	82名	87名	21.7倍
専攻科	32名	19名	13名	29.4倍



本校の特徴ある教育

① ものづくり教育の推進

低学年における独創性・創造性を育む教育（ものづくり科学、3単位）の導入

これまで、高専においては、高学年では卒業研究、工学実験によるものづくり教育が行われてきたが、低学年では基礎的な学習が多く、学生が学習の目標を見失いがちであった。そのため、工学基礎コースの導入に併せてPBL型学習の「ものづくり科学(3単位)」を導入し、低学年でも、ものづくり教育を行っている。



② 地域連携協定による地域支援の推進

和紙産業との共同研究、インターンシップ

隣接する今立町は、平安時代より和紙製造では、全国屈指の産地となっており、「越前和紙」として有名である。本校では、和紙材料の保存方法と、廃液の微生物を用いた処理方法に関する共同研究を行っている。また、これらの研究を学生がインターンシップとして参加し、教育的にも成果を還元する。



眼鏡産業との共同研究、アイデア募集

鯖江市は世界で最も大きな眼鏡枠製造集積地帯となっており、眼鏡枠の国内生産額の90%以上近くを占め、生産額は1,000億円近くとなっている。本校では眼鏡に関するアイデアコンテストである、「めがねwakuワクコンテスト」を平成16年度より全国の生徒・学生対象に開催している。また、眼鏡枠材料に関する共同研究も行っている。



現代
G.P.
good practice



越の国ひとづくり・まちづくりコミュニティ

(平成17年度採択)



③ キャリア教育の実施

起業家育成による実践的キャリア教育の推進 (平成19年度採択現代GP)

本校では、起業をめざす学生や卒業生・一般社会人の起業家の起業を支援するため、ビジネススキルの習得方法や専門知識を教育する総合的なキャリア教育を行っている。

平成20年には、アントレプレナーサポートセンターで活動中の学生が、(独)情報処理機構(IPA)の未踏IT人材発掘・人材育成事業の採択を受けた。



「アントレプレナーサポートセンター」における起業家育成による本校総合キャリア教育の位置づけ



中学校からの入学



低学年生と高学年生がチームを組んで起業にチャレンジ。高学年は起業家をめざしながら様々なキャリア教育を受けると同時に自分でビジネスを構築



独創力・創造力を持つ実践的技術者



現代GPフォーラムの開催 平成22年2月16日



総務省 (独)情報通信研究機構(NICT)事業
「がんばるICT高専学生応援プログラム」(平成19年度～)



④ 地域における本校卒業生企業との連携

平成20年度より、(独)国立高等専門学校機構「企業技術者等活用プログラム」により、地域の卒業生起業家・技術者を招聘し、ICT技術教育や、ものづくり技術の情報化などの教育を行っている。
この取り組みはNHKの全国放送や、全国紙で大きく報道されている。



⑤ 各種理科コンテストの実施

マグネットコンテストの実施
(平成7年度より、毎年1000件を超す応募)

めがねwakuコンテストの実施
(平17年度より、毎年1200件を超す応募)



平成21年度 高専機構特別教育
研究経費
女子中学生の高専進学への理解増進と高ブランド戦略による志願者の確保



様々な学校情報の社会への発信



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

インターネット による学校紹介	情報提供による学校イメージ固定
FM放送による 学校紹介	身近な情報提供による学校イメージ固定
テレビスポンサー CM	オープンキャンパス
	入試直前



テレビCMの放映

中学生・保護者・中学関係者対象
クラシックコンサートの開催



平成21年11月13日開催
入場無料
場所 福井高専体育館
曲目 ドビッシェ他



高専ものづくり塾3Dデザイン・設計講座
～就職支援と企業人ブラッシュアップ～



実施期間
平成19 8月 1 日～平成22年 3月5 日



3次元CAD講習会開催のお知らせ



あなたも
学びなおしに挑戦。

福井商工専門学校の方たちのための学び直し教育
として、3次元CAD講習会と技術文庫科学「社会人の学び直し」を文化財教育推進センターで
実施しています。

この講習会は3次元CADのイメージを
自分の基本から応用まで学習可
します。現役、求職中の方、能
力、機械・電気産業など必要
と認められられている方、ぜひこの
CAD講習会にご参加ください。

講習会のスケジュール

募集期間	1月21日(月)～2月1日(月)
申込受付 <td>1月21日(月)～2月1日(月)</td>	1月21日(月)～2月1日(月)
講習会 <td>2月2日(火)～2月3日(水)</td>	2月2日(火)～2月3日(水)
受講料 <td>2,000円(税込)</td>	2,000円(税込)
定員 <td>20名</td>	20名

参加費無料 福井工業専門学校 福井校
TEL. 077-66-6201

国立福井工業高等専門学校



1. 原子力人材育成事業の実施

電磁波共振型NMR

レーザー

プラズマ発生

分光器

Na⁺イオン測定

電磁波共振型NMR

レーザー

プラズマ発生

分光器

Na⁺イオン測定

2. 福井県機械協同組合との連携によるもんじゅプラント保全技術開発
(平成21年度～平成23年度)

福井県機械協同組合とは平成19年度より閉炉ロボットの開発などを行ってきたが、今後も日本原子力研究開発機構の依頼により共同研究を続ける。



教務関係

教務関係の取組(平成16～20年度)

- 平成16年度: 独立行政法人化(国立高等専門学校機構)
: JABEE(日本技術者教育認定機構)受審
- 平成17年度: 工学基礎コース制度開始
: 大学評価・学位授与機構機関別認証評価受審
- 平成18年度: 100分授業開始・学修単位の導入
: JABEE中間審査受審、学習到達度試験開始
- 平成19年度: 創造教育開発センターの設置
- 平成20年度: 50分・7限体制への移行、
: 校舎改修工事への対応

JABEE・認証評価受審に伴う教育制度の改正

- 基本理念、学習・教育目標の制定
- アドミッションポリシーの制定
- シラバスの充実
- エビデンス(成績評価資料)の保管
- 学生アンケート(授業・教育環境)等の定期的実施
- FD活動の充実、公開授業の実施
- 教育点検システムの確立
- 90分から100分授業体制へ移行

福井高専(本科)の教育の特長

- くさび形教育(専門科目が学年と共に増加)
- 担任がきめ細やかに指導
- 体験型科目(実験・実習・演習・創成科目)や情報処理教育が充実
- 1年: 混合学級(1クラスは工学基礎コース)
創成科目「ものづくり科学」の導入
- 2～5年: 8学科に分かれて工学と理系基礎教育
最も自信のある工学分野の実践力を身につける。

M 機械工学科 E 電気電子工学科 EI 電子情報工学科
C 物質工学科 B 環境都市工学科

福井高専のものづくり・環境づくり教育

確かな卒業後の進路(就職・進学)と実績
(高い求人倍率(約26倍)、高専専攻科進学と国立大学3年編入)

創造性と実践力を育む 体験重視型教育

- <2～5年> 実践的専門教育
専門基礎能力、問題解決能力、
実践的専門技術の習得
→ 充実した体験型授業
実験、実習、コンピュータ演習
創成科目(創造工学演習等)
- <1年> 専門導入教育
→ 「ものづくり科学(創造教育)」
「コンピュータ科学入門」、「製図」

進路を決める キャリア教育

- <5年> 卒業研究
- <4年> インターンシップ
(夏季工場実習)
- <3年> 工場見学旅行
(国内の企業等を見学)
- <2年> 校外研修
(県内の企業等を見学)
- <1年> オリエンテーション
○ 外国への交換留学
○ 各学年で、社会性を育
てる講演会等実施

ものづくり・環境づくり 関連課外活動奨励

- ◎ものづくりコンテストの奨励
(ロボコン、プロコン、デザコン)
- 地域連携活動の奨励
(出前授業、環境ボランティア
共同研究等)
- 資格取得の奨励

教務関係の取組(平成21年度)

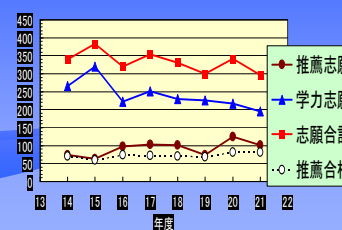
- 新型インフルエンザへの対応
教務、入試(追試験)
- 校舎改修工事への対応
代替17教室体制の検討
- 夏休み期間の8～9月への変更
学力強化週間
- 特別支援教育への対応開始
特別支援ワーキンググループの設置

CHANGE! 福井高専



入試倍率の推移と対策

人数



- 入試に関する1年生へのアンケート調査
不況に強い高専!
- 推薦基準の検討
- 入試会場の5会場体制の継続と整備
福井市会場(アオッサ)
- 配布物(CD、パンフ)、HPの改訂
- 入試関連行事の見直しと改善



入試行事①: あじさいオープンキャンパス

6月20日(土); 公開授業、学校説明会、ロボコン実演
参加者; 計581名(生徒341名)、昨年度より**112名増**



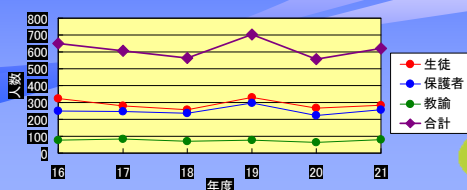
入試行事②: オープンキャンパス(体験入学)

8月8日(土); 学科紹介・体験コーナー、交流コーナー
参加者; 計621名(生徒413名)、昨年度より**52名増**
オープンキャンパス(6月+8月); 計1202名(生徒754名)
昨年度より**187名増**



入試行事③: 入試説明会

10~11月 福井県内 11回、滋賀県内 6 回実施
その他: 各中学校主催の説明会に参加(11校)
参加者; 計621名(生徒285名; 昨年度より**17名増**)



留学生受け入れ状況

3年: マレーシア1名、モンゴル1名
4年: マレーシア1名、カンボジア1名、インドネシア1名
5年: マレーシア2名、ラオス1名、バングラディッシュ1名



厚生補導関係



学生と担任制度

- 学生生活全般の指導(友人関係、生活行動の把握(欠課、欠席の点検)、健康観察、各種届け出の指導等)
- 学業成績、悩み等についての個別指導
- 特別活動の企画・実施(1～3年)
- 学校行事の指導・企画・引率
オリエンテーション(1年)、遠足・交流会、校外研修(2年)、工場見学旅行(3年)、校外実習(4年)、卒業研究発表会(5年)
- 進路(就職と進学)指導(3～5年)
- 保護者懇談会の実施(1～5年)



中期計画の中の担任制度

- 担任・副担任制度の継続
→ 学生に対するきめ細やかな対応(特に低学年)
校門指導等のふれあう機会を増やした(H16年度開始)
- 学年主任制度の導入
→ 進路指導の強化;
活動の早期化により3学年より開始
(H16年度開始、進路指導室との連携)
→ 混合学級および低学年への対応を検討



学校行事①: 様々な体験活動の継続

- 新入生オリエンテーションキャンプ(1年)
(奥越に出向き1泊2日で催行)
- 遠足(本年はインフルエンザ対策により実施見送り)、校外研修(2年)、工場見学旅行(3年)、校外実習(4年)、卒業研究発表会(5年)



親交を深めあった新入生オリエンテーション



学校行事②: 学生会活動の奨励

- 体育祭 (4月)
- 弁論大会(10月)
- 高専祭 (10月)



課外活動①: クラブ活動の奨励

- のびのびしたクラブ活動(受験戦争なし)
- クラブ数: 体育系21サークル、文化系・同好会24サークル
- 学生加入数: 約800名、顧問教員数: 延べ70名
- H21年度北陸地区高専体育大会
優勝(団体): 男子テニス、男女卓球、サッカー(北信越大会)
- H21年度全国高専体育大会:
男子テニス団体優勝・個人シングルス準優勝、サッカー準優勝
- 体育系部: 陸上、水泳、野球、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、テニス、バドミントン、ソフトテニス、卓球、ハンドボール、剣道、柔道、ソフトボール、空手、少林寺拳法、合気道
- 文化系部: プラスバンド、モダンミュージック、写真、囲碁・将棋、英語、エレクトロメーキング等



課外活動②:コンテストの奨励と支援

・ものづくり・アイデア・技能のかん養

ロボコン(地区大会優勝・全国大会10年連続出場)、
プロコン、デザコン、WRO、ふくいビジネスプランコンテスト、歯磨
きロボットコンテスト、英語スピーチコンテスト等



ロボコン地区大会は残り1秒の大逆転でした。



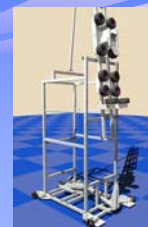
課外活動③:夢づくり工房プロジェクト

・夢づくり工房(ドリームラボ)(H17-18年度設置)

ロボコン、Robo-ONE(2足歩行ロボット)、
知能機械演習、実験、卒研等

・ロボコン用ホームページ の開設(H16年10月より)

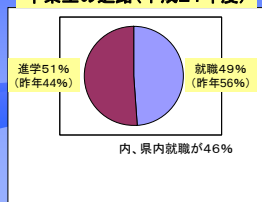
過去の戦歴、
ロボットのデモ活動、
3Dアニメーション、
QTVR等
中学生へのアピールとして
入試対策にも寄与



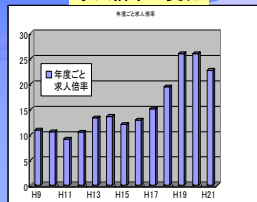
卒業生の進路:5年目の進路指導委員会

- ・高い求人倍率(平成21年度:23倍)
- ・不況下でも安定した就職先を確保、また進学先も充実

卒業生の進路(平成21年度)



求人倍率の変化



中期計画:安全管理の強化

- ・クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの改訂
十年間練習計画の作成(H16年4月より)
- ・課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備
H17・18・21年 AED(自動体外式除動器)を学内3箇所に設置
各種施設の改修および耐震化工事等
- ・クラブ活動の安全管理に関する講習
①「クラブ活動における安全管理を
中心とした指導について」
② H17年～21年:
「AEDを用いた救急救命法実習」
平成21年度50名参加



AED実習風景



感染症対策の充実

麻疹対応(H19～)

- * 麻疹抗体検査と校費補助によるワクチン接種の勧奨
H21年現在、麻疹耐性率95%以上を確保
(学校組織として)

新型インフルエンザ対応(H21年)

- * 5月より対策本部設置、延べ53回の打ち合わせ
- * 状況に応じきめ細かな対応



中期計画:メンタルヘルス関連

・学生指導担当職員研究会の開催

- H17年7月:「高専生のメンタルヘルス」
- H18年7月:「青年期理解と対応」
- H19年7月:「発達障害の理解と対応」
- H20年1月:「メンタルヘルス講演会 ～命の大切さ～」
- H20年7月:「思春期・青年期の依存行動について」
- H20年7月:「学生相談室の現状討論会(相談室関係教職員)」
- H21年7月:「発達障害の理解と対応」

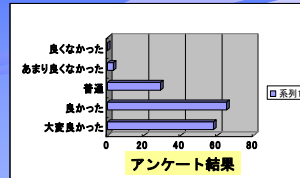
・メンタルヘルス関連の充実

- H16年より毎年実施:学生相談関連アンケート(全学生)
- H19年1月:いじめに関するアンケート(1～3年)
- H19年度より外部の専門カウンセラーによる相談を週2回に拡充
- H20年度より学生相談室関係教職員の増強(10名体制)
- H20年度末、学習支援のためのプロジェクトチームを設立



中期計画:ボランティア関連

- ・ ボランティア活動の奨励
→ H20年10月: 第5回クリーン大作戦 (155名参加)



よかった理由: 何か良いことをした気になった。いい気持ち。



5年一貫教育の利点を生かした 人格形成の人間教育を実践

- * 担任制度の充実
- * クラブ活動・学生会活動への積極参加
- * 各種コンテストへの参加奨励
- * メンタルヘルス・安全管理の強化
- * ボランティア活動への自主的参加
- * アントレプレナーサポートセンターを
中心にした、起業家精神の涵養



寮務関係



福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮及び西寮の4棟からなる。現定員は237名である。現在東寮の一部に女子寮が併設されているが、来年度からは北寮が**独立した女子寮**になり、定員は245名となる。

遠隔地からの学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置されていて、**全教員が交替で寮監として泊り、寮生との触れ合いを大切に**する**教育寮**として位置付けられている。



管理運営組織

- 学寮運営委員会(10名)
- 寮務主事団(7名)
- 学生課学生生活係(2名)
- 寮監(平日2名)
- 寮生会(10名)



寮生の出身地

福井県	滋賀県	岐阜県 石川県 など	マレーシア、バン グラデシュ、ラオス、 カンボジア、インド ネシア、モンゴル
約140名	約80名	数名	9名(男子)

男子	女子
191名	46名



学寮の施設—1—

南寮・・・男子75名(1階は留学生)(全室個室)



留学生(21年度9名)

調理室
シャワールーム
チューター
居室(LAN, 空調完備)



学寮の施設—2—

北寮・・・男子72名(28名は2人部屋)
東寮・・・男子44名・女子46名(全室個室)



北寮(男子寮)
新女子寮(4月以降)



東寮(3・4階女子寮)



学寮の施設—3—

付属施設
《管理事務室・寮監室・食堂・浴室》



食堂(空調完備)



浴室



学寮運営の改善

- ①安全性の充実
- ②寮生・保護者・教職員の協力体制の充実
- ③女子寮生への設備拡充



①安全性の充実

防犯カメラの設置(平成18年)
各棟玄関



カード錠の導入(平成18年)
女子共通部分

新型インフルエンザ対策

- ・マスク着用・点呼時間の変更
- ・学級閉鎖時の帰省・入浴時間の制限
- ・クリスマス会(中止)

危機管理マニュアル作成(感染症対策)



②寮生・保護者・教職員の協力体制

- ・寮生会との意見交換会(役員会) 毎月1回(午後9時～10時)
寮生の意見、問題の早期解決
- ・寮生保護者面談会(7月)
- ・寮監マニュアル(寮生指導規範)の整備



③女子寮生への設備拡充

・図書室、集会室を男子用の居室に
男子26名(西寮・新設)

・北寮の女子寮への改修(現在進行中)
1F: 共通部分(和室、アメニティスペース等)
2F: 女子居室、留学生居室(6名、新設)
3F: 女子居室
女子定員の増加(46名⇒52名)



寮生の意識向上

- ・他高専との交流
(1)全国寮生連合会への参加(鈴鹿高専 10月)
・学生4名派遣
・全国規模で高専寮が変化しつつある
- ・文化活動
(1)学寮文集「日野」33号
(2)テーブルマナー講習会(1月)
- ・防災訓練
11月



これからの課題

- ・心の健康（メンタルケアの導入）
学生相談室・保健室との連携
- ・充実した学園生活
課外活動時間・学習時間の確保
- ・寮生への更なる生活支援（寮母など）



専攻科



専攻科制度

- ・本科の上に**2年制**の教育課程
- ・H20年度には、認定専攻科における教育の実施状況等の審査を受審 ⇒ **適**の評価
- ・大学評価・学位授与機構の審査により**学士号**取得

定員(1学年)

生産システム工学専攻(12名)
環境システム工学専攻(8名) 計20名

修了要件

62単位以上の修得
「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成
(JABEEプログラム)



学生数

在籍者数

1年生:30名 2年生:32名 計62名

修了者数

H20年度:30名(JABEE修了:30名)

志願者数

H20年度:45名 H21年度:37名

入学予定数

27名



就職・進学

求人倍率:30倍

就職先(県内就職:9名)

オリオン電機, 小林化工, 田中化学研究所, 辻広組,
アートテクノロジー 等

進学生

金沢大学大学院, 福井大学大学院,
豊橋技術科学大学大学院, 北陸先端科学技術大学院大学,
奈良先端科学技術大学院大学



技術者教育

「環境生産システム工学」の教育プログラム
(JABEE認定プログラム)

11科目で各2~3回の授業の非常勤講師
(技術士, 弁理士, NPO理事長, OBの起業家等)

北陸技術交流テクノフェアでの技術シーズ発表会

約1ヶ月のインターンシップ(1年生全員)



知的財産教育セミナーの開催

(共催:知的財産教育委員会)

「ゼロから学べる知的財産」

講師:山口大学知的財産部門長
佐田洋一郎氏



女性技術者セミナーの開催

(共催:企画室)

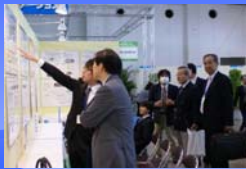
「女性技術者の現状と今後の展望」

講師:日立技術士会 千木良 美由紀氏
女性技術士の会 原田 宗美氏



特別研究の成果

技術シーズ発表会
(福井県産業会館)



エコテクノロジーに関する国際
シンポジウム 16th ASET (中国大連市)



学会での表彰

・ASET Best Student Award & Good Student Award
(16th ASET, H21.10)



教育研究協定

・福井大学大学院

ファイバーアミニティ工学専攻と学術協定締結(H18.2)

・北陸先端科学技術大学院大学

同上大学と推薦入学覚書を締結(H19.4)



専攻科と本科の連携

総合試験(数学, 情報)の**本科生の受験**

TOEIC-IPテスト(年5回)の**本科生の受験**

学力選抜試験科目「英語」の評価に、外部試験の
評価を導入 => 申請者には**英語試験を免除**



厚生・補導・課外活動

TOEIC高得点者(3名)を表彰

出前授業, 公開講座, オープンキャンパス,
サイエンスフェア等への参加

専攻科生との懇談会



平成 21 年度「外部有識者会議」報告書

発 行 福井工業高等専門学校

〒916－8507 福井県鯖江市下司町

電話 0778－62－1111

FAX 0778－62－2597
